

認定農業者にみる財務管理の実態調査

1. 調査のねらい

国際化の進展のもと経営感覚に優れた経営体の育成が急務の課題であり、そのためには、経営を計数的に管理する簿記記帳が不可欠である。そこで、経営体を志向している認定農業者を対象として簿記記帳の実態と課題について明らかにする。

2. 調査方法

宇都宮市・足利市・真岡市・河内町・塩谷町の3市2町的全認定農業者322人を対象として、平成9年12月にアンケート調査を実施した。回答者は187人（うち法人経営は7法人）で、回答率は58%であった。

3. 調査結果および考察

(1) 簿記記帳の有無および記帳方式

簿記記帳農家は76%で、うち複式簿記28%、単式簿記48%であった（図-1）。販売金額が多いほど記帳割合が高く、かつ複式の割合も高い（図-2）。簿記記帳の担当者は経営主かその配偶者が主体であったが、複式では配偶者の割合が高く、財務管理の側面では女性の比重が高い。

(2) 簿記記帳の経営への利活用

「青色申告および経営改善」が51%、「主に青色申告」が40%で、経営改善への活用度も高い。単式では「主に青色申告」が、複式では「青色申告および経営改善」が高く、経営改善に対する意識は複式記帳者のほうが高い（図-3）。当初の複式記帳の目的は、「税務対策」が「経営改善」をやや上回っていることから、記帳経過年数を経るにしたがい経営への活用意識が高くなっていると考えられる（図-4）。

(3) 経営改善への取り組み

「経営規模の拡大」「資材購入方法」「栽培技術」「借入金返済計画」「農機具の装備方法」等の生産面や資金面での改善の取り組みが多く、販売面や雇用面の取り組みは少ない（図-5）。

(4) 簿記記帳の課題

企業的経営を目指す認定農業者においても複式記帳者が少ないこと、また、販売金額1,000万円以上での無記帳者が19%あり、複式を主にした簿記記帳意識を高めることが必要である。

4. 成果の要約

認定農業者の簿記活用は、税務対策とともに経営改善に対しても意識が高い。特に、単式記帳者に比べ複式記帳の方が経営改善への意識は高い。記帳による経営管理内容は、生産面と資金面に重点がおかれている。認定農業者でも複式記帳が少ないのが課題である。

(担当者 企画経営部 石井康夫*) *現栃木農業改良普及センター

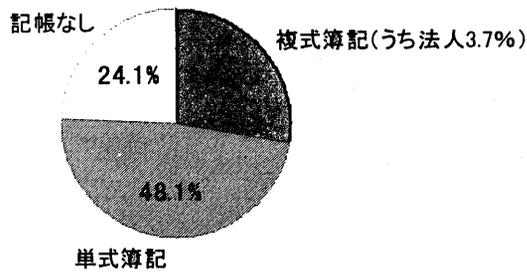


図-1 簿記記帳の有無および記帳方式

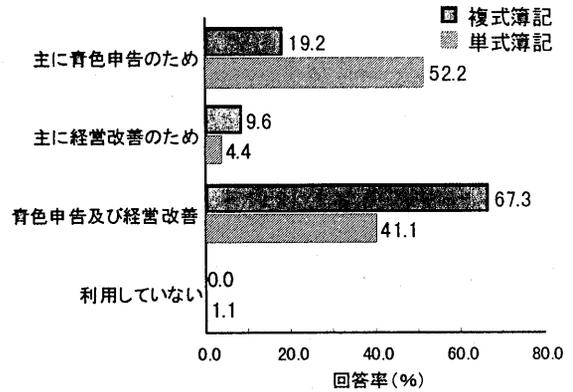


図-3 簿記記帳の利活用方法

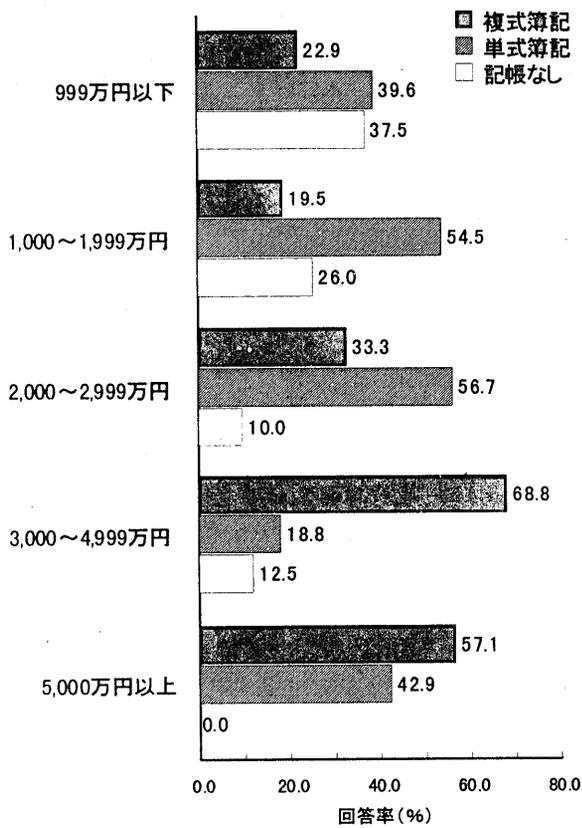


図-2 販売金額別記帳方式

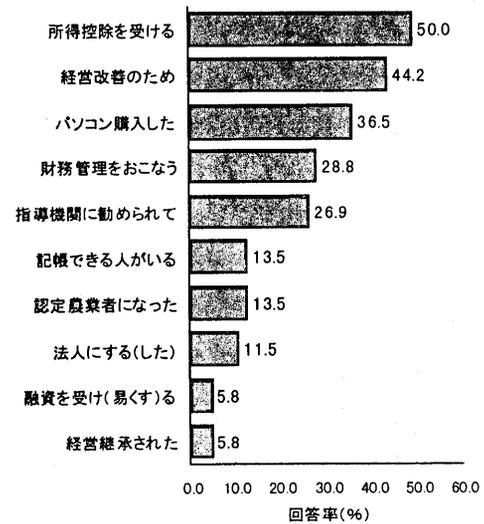


図-4 複式簿記記帳の理由(重複回答)

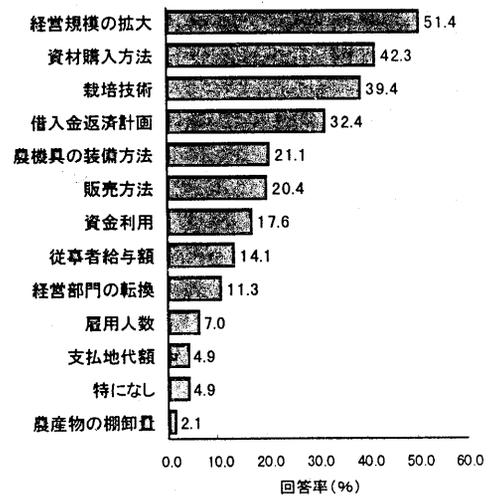


図-5 簿記記帳者の経営改善の内容
(重複回答)